

白鷺

No. 48
2017.2.17



平成29年・伊豆丸鷺洲先生生誕130年
白鷺連合会 創立55周年

年頭にあたって

白鷺連合会
会 長 松 尾 佳 恵



皆様、新年明けましておめでとうございます。

本年も幸多い楽しい一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

平素は、白鷺連合会の運営に何かとご支援ご協力をいただきまして有り難うございます。

昨年は、メイン事業の一つであります「白鷺吟行会」が、岡山にて全国各地より多くの会員皆様にご参加いただき、盛大に開催できましたこと、深く感謝いたしております。

そして2年前から準備を進めていただきまし

た岡山連合会の先生方、実行委員会の皆様に対しましても、重ねて深く感謝いたしております。有り難うございました。

さて、本年は白鷺連合会創立55周年記念吟詠大会、併せて白鷺連合会の祖であります伊豆丸鷺洲先生の生誕130年祭を開催いたします。会員皆様方には、物心両面のご協力をよろしくお願いいたします。

楽しく和やかに一心向上

私ごとですが、寄る年波には勝てませんが、勝ちたいです！

私の今年の漢字一文字 「嘯」

平成29年 白鷺連合会 新年互礼会 開催

白鷺連合会新年互礼会が、1月7日(土)「大阪リバーサイド ホテル」において開催されました。午後4時に谷澤暁声総務部長の力強い開会宣言に始まり、岩間鶴声総務局長の酉年にふさわしく、明日に羽ばたく年に成るようにと力強い開会挨拶があり84名の出席者数の報告がありました。

森口雪孝総務局次長による巻頭言唱和、飯田報鷺副会長による関吟会歌、池田恍聖青年部長による白鷺連合会歌が声高らかに合吟されました。

松尾佳恵会長より白鷺連合会運営に対して会員の皆様のご支援ご協力にお礼の言葉あり、代表挨拶として伊東鷺伸顧問から、伊豆丸鷺洲師の教えの如く「和と奉仕と感謝の気持ち」で関吟本部を支える白鷺連合会会員として頑張りましょうとの挨拶があり。

宗帥 松尾鷺恵先生の“祝百寿”として、曾根鷺夕顧問よりお祝いの花束贈呈がありました。

安田鷺迪顧問のご発声で、乾杯・宴の幕がきました。各人は杯を酌み交わし旧知を温め談笑・情報を行い、テーブルごとにカラオケ懇親も行われました。小井鶴伸副会長の閉宴挨拶、松尾岳豊顧問の音頭により万歳三唱で閉会しました。名残り尽きないなか、心の底から湧き出る白鷺の団結力を見た気がしました。

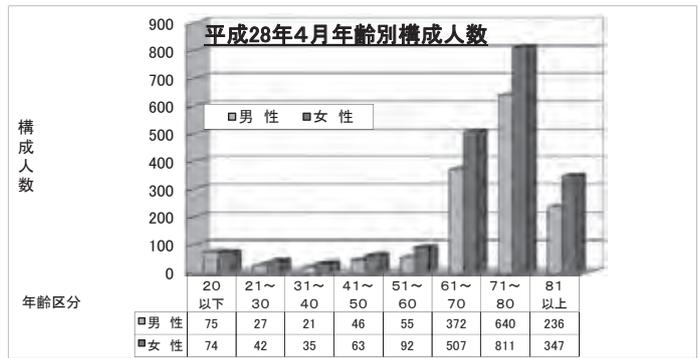
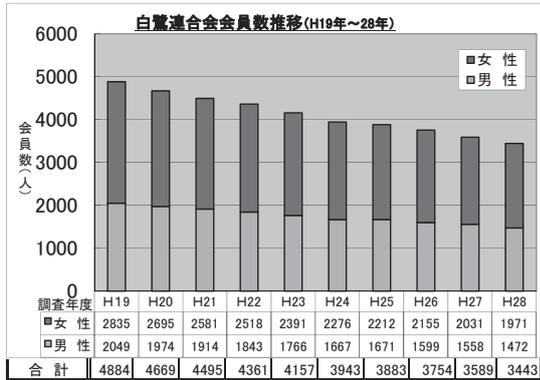
広報部 岳野恍輔 (記)



平成28年度 実態調査の結果について

総務部で毎年実施している実態調査につき平成28年度の結果を報告します。

(総務部所管)



調査年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
男性	2049	1974	1914	1843	1766	1667	1671	1599	1558	1472
女性	2835	2695	2581	2518	2391	2276	2212	2155	2031	1971
合計	4884	4669	4495	4361	4157	3943	3883	3754	3589	3443

年齢区分	20以下	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	81以上	合計
男性	75	27	21	46	55	372	640	236	1472
女性	74	42	35	63	92	507	811	347	1971
合計	149	69	56	109	147	879	1451	583	3443

関吟総本部主催全国競吟大会の結果

◆平成28年度全国新人・中間層競吟大会

平成28年11月20日(日) 於：エーリック

[新人の部]

優勝 山田 恵美子 春鷺声栄会
 第5位 牧 栄理子 鷺伸吟詠会
 第8位 水谷 美也 鷺伸吟詠会

入賞

川崎重雄 岳豊会 山田 薫 青誠会
 杉山茂夫 鷺伸吟詠会 堀部 清 広島鷺夕会
 上田鈴美 鷺舟会 稲垣芳雄 岳豊会
 米澤昌彦 攝友会 石田米子 淞苑会
 上田隆子 岳豊会 土屋 章 青誠会

[初級の部] (無段～2段)

第7位 上田 智祥 攝友会
 第8位 小林 悠貴 攝友会

入賞

尾関 仁 鷺伸吟詠会 芝田千鶴子 鷺伸吟詠会
 後藤賢司 岳豊会

[上級の部] (3段～4段)

入賞
 菊川節子 淞苑会 百合正和 岳豊会
 青木耕二 鷺照吟詠会 佐藤一弘 広島鷺夕会
 松本悦雄 鷺声吟詠会 川野恵弘 岡山鷺照会
 山中利夫 淞苑会

[和歌の部]

優勝 川野 恵弘 岡山鷺照会
 第2位 石本 哲郎 広島鷺夕会
 入賞
 菊川節子 淞苑会 石飛雄三 広島鷺夕会

◆平成28年度全国指導者級吟詩権者決定吟詠大会

平成28年12月11日(日) 於：高槻市現代劇場

[吟士権の部]

第7位 西谷 和世 淞苑会
 第8位 米田 真澄 成秋会
 第9位 谷澤 弘喜 船場吟詠会

入賞(プロ順)

松永雅夫 広島鷺栖会 尾崎安彦 鷺恵会
 山本正男 鷺声吟詠会

[準師範の部]

優勝 沢田 千鶴香 鷺伸吟詠会
 第8位 森 佳奈子 攝友会

入賞(プロ順)

森 民子 鷺声吟詠会 中山正子 広島鷺津会
 天田富美子 澄声会 藤原博世 鷺声吟詠会
 武田年晃 浜松鷺長会 内座由起葉 鷺照吟詠会

[師範代の部]

第4位 中村 雅典 鷺伸吟詠会
 第6位 沖本 周子 広島夕朋会
 第8位 木村 正 鷺伸吟詠会
 第9位 斎藤 弘 広島鷺夕会

入賞

八木きみ子 鷺伸吟詠会 堀部綾子 広島鷺夕会
 郷上イチ 鷺恵会 林香代子 志舟会
 中岡克典 鷺声吟詠会

[和歌の部]

準優勝 西谷 和世 淞苑会
 準々優勝 吉川 弘之 広島鷺夕会

入賞

森佳奈子 攝友会 尾崎安彦 鷺恵会
 田中早和美 岳豊会 倉岡英子 広島鷺夕会
 高須 典 鷺伸吟詠会 中本栄子 広島鷺夕会
 林香代子 志舟会 磯部くまの 鷺伸吟詠会
 土谷紀美子 岳豊会 羽世田清美 岳豊会

“この大会に早朝より準備、お世話を頂きました大会委員の先生方に厚く御礼申し上げます”

平成28年度 白鷺連合会理事総会

- と き : 平成28年5月14日(土曜日)午後5時より
- と ころ : 海老江西コミュニティーセンター

◇総会決議事項

総合司会 谷澤暁声・加藤扇郊
西村夕城先生
片山鷺丘先生
川畑璋鵬先生

◇巻頭言唱和

◇関西吟詩文化教会会歌合吟

◇白鷺連合会会歌合吟

◇定数報告並びに開会成立宣言(総務部)

◇理事総数111名 出席数48名 委任状59名 未着4名
会則第13条により総会成立宣言

◇会長挨拶 就任して早や一期2年を過ぎました。引き続き皆様のご協力の程御願います。

◇議長選出

議長 山根鋒孝先生

1号議案 H27年度 行事経過報告 承認
2号議案 H27年度 会計決算報告 承認
3号議案 H27年度 会計監査報告 承認

高田朱粹先生
児玉登春先生
若林鷺誓先生
堂本鷺謀先生

4号議案 H28年度 行事計画案 承認
5号議案 H28年度 会計予算案 承認
6号議案 役員改選

古賀戊孝先生
小林攝匍先生
岩間鶴声先生

相談役 野島翔声先生 鷺声吟詠会 新任
相談役 原田岳蓉先生 岳豊会 新任
会 長 松尾佳恵先生 鷺恵会 再任
副会長 片山鷺丘先生 鷺照吟詠会 再任
山根鋒孝先生 船場吟詠会 再任
小井鶴伸先生 鷺伸吟詠会 再任
玉森陽郷先生 鷺郷吟詩会 再任
川畑璋鵬先生 天理吟詠会 再任
芳野歩孝先生 攝友会 再任
飯田報鷺先生 浜松鷺長会 再任
西村夕城先生 鷺夕会 再任
堂本鷺謀先生 鷺声吟詠会 新任
岡田岳遙先生 岳豊会 新任

総務局長 岩間鶴声先生 鷺郷吟詩会 再任
総務局次長 美濃鷺廣先生 鷺恵会 再任
〃 森口雪孝先生 攝友会 再任
〃 小平秋紅先生 成秋会 再任
総務部長 谷澤暁声先生 船場吟詠会 新任
財務部長 児玉登春先生 春鷺声栄会 再任
企画事業部長 古賀戊孝先生 攝友会 再任
広報兼H/P管理部長 塩路澄誠先生 澄声会 新任
会計監査 若林鷺誓先生 鷺舟会 再任
〃 高田朱粹先生 鷺粹吟詠会 新任
〃 村田訓洲先生 双仟吟詠会 新任
女性部長 東本秋愛先生 成秋会 再任
青年部長 池田恍聖先生 攝友会 再任

◇その他報告事項

- ①第55回白さぎ吟詠の集い競吟大会結果報告とお礼 芳野歩孝先生
- ②白さぎ吟行岡山大会 平成28年11月12~13日
岡山後楽園・せとうち児島観光ホテルへの予定と申込について 森口雪孝先生
- ③創立55周年記念大会並びに伊豆丸鷺洲先生生誕130年行事について
平成29年10月29日 高槻現代劇場にて 準備委員長 山根鋒孝先生
- ④平成28年度実態調査結果 総務副部長 森本敬声先生
- ⑤平成28年度女性部行事計画 女性部長 東本秋愛先生
- ⑥平成28年度青年部行事計画 青年副部長 中岡蒼狼声先生
- ⑦平成28年度 会費納入お願い 財務部長 児玉登春先生
- ⑧新役員紹介 総務局長 岩間鶴声先生
閉会挨拶 副会長 玉森陽郷先生
万歳三唱 副会長 安田鷺迪先生

「白さぎの展望」

副会長 堂 本 鷺 謹



白鷺連合会が昭和36年に発足して、来年は55年を迎えることとなります。私が入会して2年後のことでした。当時は小学校の講堂での競吟

大会、また高段者長詩大会で北トラガーデンの座敷の窓辺で、先輩の吟を聞いていた思い出があります。

白鷺連合会のお手伝いとして携わって20年近くになると思いますが、お手伝いの方々の白鷺に対する熱意・行動には非常に感動し、今も思いは変わっていません。これが白鷺魂だと感じています。

鷺声吟詠会の理事として、初めて白鷺理事総会に出た時、青年部・女性部の決算書が議案として提案されており、議案でなく報告事項ではないのかと質問したことを覚えています。その後の総会で、理事が総会後の6月に改選されていることに疑問を抱きお尋ねしましたが、4月の改選は各支部の態勢が整っておらず出来ない、以後、時々役員の方に疑問を呈してきましたが、今年の常任理事会で岩間総務局長の英断で、平成29年より理事改選の時期を4月に行うことが決まりました。一部役員から、新しい提

案をなかなか受け入れてもらえないとの話を聞きましたが、新参加者が初めての会合に出て疑問・不審に思うことを躊躇なく発表し提案することは、慣例に慣れているものに良い刺激を与えるものと感じました。

白鷺吟詠会の名称で発足した当初より組織として、各支部より選出された理事の中から会長を初めとする役員を慣例により選任してきました。

しかしながら、平成22年以降、理事でない役員が増え、平成28年には理事は役員以外から推薦せよとの通知により、役員会（常任理事会と呼称されています）と理事会との相対する二つの組織が存在している状況であります。役員会は自分達の仲間うちで独占することとなり、これは役員会の横政の始まりとなります、従前の民主的な理事の中から常任理事（役員）を選出するという組織体制に戻すべきものと考えています。

民主主義は不断の努力なくしては守れません。小さな蟻の穴からでも堤防は崩れます。少しの変化をも見抜き、慣例にとらわれることなく注視していかなければならないと、感じているところです。

副会長 岡 田 岳 遙



この度、図らずも
白鷺連合会副会長の
大役を拝命し、少な
からず困却してお
り、任務の遂行が出
来るか一抹の不安の

ぬぐえぬ中、「白さぎの展望」について投稿の
要請を受けました私には、将来の構想など大そ
れたものは持ち合わせていませんが、現在の思
いの一端を述べお許し願いたいと思います。

ところで、機関誌「白さぎ47号」に掲載され
ている27年の実態調査を見ると、18年度の会員
4,902名に対し、27年度は3,589名で1,313名の減
少であり、そのうち71歳以上が2,127名で、実
に59.3%を占めている状況です。

白さぎの主たる事業は、競吟大会、周年大会、
吟行会、チャリティ吟詠会等があり、各事業に
携わる役員のご尽力、なみなみならぬご苦勞の
積み重ねにより実行されており、本当に感謝の
念でいっぱいであります。

白さぎの発展には、各事業の取り組みの重要
性は勿論ですが、展望を開くには何といても

会員増が望まれます。ここに一支部の状況を記
すのはどうかと思いますが、私の所属する岳豊
会日高支部相談役の朝倉岳翔先生が事ある度
に、会の発展とは即ち会員の数であると強調さ
れ、会員の維持が出来なければ、展望は開けな
いと米寿を迎えられた今日においても、自ら行
動、率先垂範し、支部を牽引されています。

また、現支部長も月一回の指導部会議で毎回
会員増強の取り組み状況を把握し情報を共有し
頑張っています。

白さぎの展望を開くには、先ずは新会員の増
により、会員減少に歯止めをかけることが最も
重要ではないかと思います。

何れにしましても、若くて元気でなければ活
気も勢いも出てこないと思います。特に青年部
や中間層会員のさらなる活躍が白鷺連合会の展
望を開くものと期待するところです。

以上

第55回 白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告

平成28年4月10（日）尼崎エーリックにおいて開催されました。当日は624名が日頃の精進の成果を発表するとともに、会員同士の交流を深めた一日でした。各部の成績は以下の通りです

新人の部（鷺洲杯）

優勝	山田 恵美子	認承	春鷺声栄会
準優勝	山田 薫	公認	青誠会
第3位	服部 幸子	公認	鷺伸吟詠会
第4位	牧 栄理子	公認	鷺伸吟詠会
第5位	太田 雅代	公認	浜松鷺長会

初段の部（読売新聞大阪本社杯）

優勝	菊川 泰博	認承	鷺舟会
準優勝	鬼頭 知里	公認	鷺伸吟詠会
第3位	井谷 圭子	公認	鷺伸大阪仲友
第4位	石原 エミ子	公認	鷺照吟詠会
第5位	藤井 章一	公認	岳豊会豊岡

貳段の部（大阪市長杯）

優勝	河野 文	公認	鷺伸吟詠会
準優勝	小林 悠貴	公認	攝友会
第3位	慶津 浪子	公認	鷺伸吟詠会
第4位	坂田 真奈美	認承	船場吟詠会
第5位	栗並 良樹	公認	広島鷺夕会

参段の部（大阪府知事杯）

優勝	真下 幸信	公認	攝友会
準優勝	松本 由清	公認	天理吟詠会
第3位	杉山 幸代	公認	岳豊会豊岡
第4位	大倉 美恵子	公認	鷺照吟詠会
第5位	百合 正和	公認	岳豊会日高

上級の部（鷺恵杯）

優勝	田邊 邦善	公認	鷺伸吟詠会
準優勝	森 佳奈子	公認	攝友会
第3位	田中 ますみ	公認	岳豊会日高
第4位	宮崎 節夫	認承	船場吟詠会
第5位	永井 孝行	公認	岳豊会日高
第6位	藤原 博世	公認	鷺声吟詠会

最上級の部（鷺声杯）

優勝	菅原 祥之	認承	船場吟詠会
準優勝	福井 敬度	公認	青誠会
第3位	中原 博司	公認	鷺伸吟詠会
第4位	舟橋 末光	公認	鷺伸吟詠会
第5位	森 順道	公認	鷺声吟詠会
第6位	坂本 住子	認承	志舟会

和歌の部（鷺孝杯）

優勝	八木 きみ子	公認	鷺伸吟詠会
準優勝	尾上 美千恵	認承	志舟会
第3位	安達 董	公認	鷺伸吟詠会
第4位	米田 真澄	認承	成秋会
第5位	内田 育子	認承	岡山鷺照会

壮年①の部（佐藤鷺照杯）

優勝	吉野 卓三	認承	澄声会
準優勝	杉田 隆利	公認	鷺伸吟詠会
第3位	後藤 賢司	公認	岳豊会豊岡
第4位	眞野 圭二	認承	岡山鷺照会
第5位	竹下 孝	公認	攝友会

壮年②の部（伊東鷺伸杯）

優勝	田中 和彦	認承	岡山鷺照会
準優勝	田房 喜朋	認承	澄声会
第3位	土谷 紀美子	公認	岳豊会豊岡
第4位	山本 進	公認	鷺伸大阪仲友
第5位	花谷 浩子	公認	攝友会

壮年③の部（安田鷺迪杯）

優勝	石井 孝	公認	鷺伸吟詠会
準優勝	森下 周一	認承	船場吟詠会
第3位	蟹江 貞男	公認	鷺伸吟詠会
第4位	福田 八郎	公認	天理吟詠会
第5位	笹井 妙子	公認	攝友会

連吟の部（鷺舟杯）

優勝	内座 由紀葉	公認	鷺照吟詠会
	空 富美子		
準優勝	羽世田 清美	公認	岳豊会日高
	古谷 照子		
第3位	丹羽 久枝	公認	鷺伸吟詠会
	吉田 詔子		
第4位	武本 勝嘉	公認	鷺照吟詠会
	青木 耕二		

合吟の部

優勝	田中美恵子ほか	公認	岳豊会日高
準優勝	池田 寿子ほか	公認	鷺伸吟詠会
第3位	永田 桂子ほか	公認	鷺恵会
第4位	松本和嘉江ほか	公認	岳豊会豊岡
第5位	内田 順子ほか	公認	鷺照吟詠会B

年少の部

優勝	牧 紅葉	公認	鷺伸吟詠会
奨励賞	堀田 萌乃	認承	澄峰会
奨励賞	松好 映実	公認	天理吟詠会
奨励賞	加古 望	公認	攝友会
奨励賞	中谷 春菜	認承	沁苑会

団体の部

優勝	認承	春鷺声栄会
準優勝	公認	攝友会A

白さぎ吟行会「岡山大会」開催される

白さぎ吟行会 岡山大会 ～おいでんせえ おかやま～

鷺照吟詠会 中山 瞳伸

と き：平成28年11月12日～13日
〈吟の発表会〉

ところ：後楽園 能楽堂
〈懇親会・宿泊〉
せとうち児島ホテル
〈観光〉
良寛円覚寺

好天に恵まれた平成28年11月12日、13日に、白さぎ吟行会岡山大会が開催されました。まずは日本三名園の一つに数えられる後楽園能舞台



にての吟詠交流会。山根鋒孝大会副会長の発声で、いよいよ開幕です。セレモニーの終盤、鷺照吟詠会大取鷺照会長の晴れの国岡山への歓迎の言葉に続き、松尾佳恵大会会長より健康第一に吟行会を楽しみましょうとの挨拶がありました。



プログラム一番は岡山地区連合会の構成吟「祖国日本 真備と仲麻呂」です。遣唐使として唐に渡り、多くの文物を日本にもたらした吉備真備と、唐の朝廷で高官となるもついに祖国に帰ることができなかった阿倍仲麻呂の物語です。



会員吟詠は独吟、連吟、合吟など45組に分かれての登壇。能舞台であるため、皆さん白足袋か純綿靴下を着用、マイクなしの吟詠は貴重な経験でした。プログラムは、大会役員一同の努力の甲斐あって、スムーズに進行し予定通りに終了しました。98歳の松尾鷺恵先生もずっと熱心に見守ってくださり、心強く思いました。



園内は秋もたけなわ、名園の散策も早々に切り上げて、いざ懇親会場のせとうち児島ホテルへ移動です。会場のホテルは、島々が点在する穏やかな瀬戸内海と、岡山と香川をつなぐ瀬戸大橋を一望する素敵な立地。懇親会の幕開けは「吉備の中山龍王太鼓」



力強く打つ勇壮な響きが広い会場に満ち、楽しい宴は始まりました。植村鷺登先生の音頭で乾杯、瀬戸の酒肴を味わいながら、各地区の余興を楽しみました。岡山連合会は何度も練習を重ねた「温羅じゃ踊り」を披露しました。

楽しいひと時もつかの間、森口雪孝実行委員長の閉会の言葉に続き、伊東鷺伸先生の万歳三唱で閉会となりました。

翌日は8時30分、ホテルを出発し、教本でも馴染み深い良寛の足跡を訪ね、玉島／円通寺へ。現地ガイドの皆様の案内で、境内にある良寛像

の前で「時憩」を全員で合吟。ご住職のお話を伺い、良寛が修行したというお堂などを見学しました。

そして次は前日の構成吟にちなみ、まきび公園へ。吉備真備の功績を学び、また思いがけなく素晴らしい紅葉を見ることができました。国分寺の五重塔など、のどかな田園風景が広がるサンロード吉備路で昼食をとった後、解散となりました。次回は大阪で再会です！



第4回 白さぎ交流会

と き：平成28年11月23日（祭日）

と ころ：西淀川区民ホール

今年で、交流会も4年目を迎え、10:00 玉森陽郷副会長の開会宣言につづき黙禱、巻頭言唱和、会歌合吟（本部、白さぎ）の後、松尾佳恵会長よりおおいに交流していただき「和」を広げていただきとの挨拶がありました。

10:20 会員増強の今年度表彰団体 船場吟詠会、鷺照吟詠会、茨木清流会が松尾佳恵会長より表彰されました。

10:30 詩歌朗詠研修の時間となりました。新教本A67-5題 A67-1「秋浦の歌」、A67-2「秋思」、A67-3「銷夏の詩」、A67-4「余生」、A67-5「八幡公」について、吟詠指導がありました。

A67-1「秋浦の歌」、A67-2「秋思」、A67-3「銷夏の詩」は中谷淞苑先生、A67-4「余生」、A67-5「八幡公」は松尾佳恵先生から、それぞれ1節ごとの素読指導、2節ごとの吟詠指導、通しの吟詠指導があり、また男性キー・女性キーの通しの吟詠指導がありました。

12:00~12:30 軽食休憩のあと、A67-5題の研修吟について、優秀吟者吟詠があり、「秋浦の歌」は谷澤曉声先生、「秋思」は尾上紅篁さん、「銷夏の詩」は塩路澄誠先生と西谷苑鈴さん、「余生」は米田秋澄先生、「八幡公」は吉田琥孝先生からそれぞれ模範吟詠がありました。



13:00 「思うがままに」大橋鷺迅先生講演

「言^{こと}霊^{だま}」とは、言葉に宿ると信じられている霊的な力の事です。声に発した言葉が何らかの影響を与えると信じられています。何気なく使っている「ありがとう」の言葉ですが、意味をじっくり考えたことがありますか。言葉は難しいものではなく楽しいものです。言霊を身につけると、人間関係や人付き合いが良くなりますとの話がありました。



言霊の歌として、「あわの歌」アカハナマイキヒニミウク フヌムエケ ヘネメオコホノモトロソヨ オケレセエツル スユンチリシイタラサヤワ の紹介があり、「あわの歌」の朗読は、滑舌が良くなるそうです。

また、白鷺55周年大会再構成吟「鞠挟み」について、伊豆丸鷺洲家の家紋「丸に鞠挟」の話がありました。

13:40 今までの「まとめ」として、小井鶴伸副会長から感謝とお礼の言葉があり、10分間の休憩に入りました。

ディスカッションに入るため、役員、会員関係なくそれぞれテーブル（1~14テーブル）への席替えが行われました。

14:00「語り合うその前に・テーマ説明」として、白鷺55周年大会実行委員長 山根鋒孝副会長から白鷺連合会55周年大会や白鷺連合会の10年・15年先について、ディスカッションしてほしいとの挨拶がありました。

「白鷺連合会55周年大会を語る」のディスカッションに入りました。

交流会ディスカッション

（各テーブルの意見をテーマごとに整理しました）

1. 参加の方法について

- ① 参加者全員舞台に上がれるように。（参加したという気持ちを大切に）
- ② 関西吟詩の源は、関西大学であり出演をお願いします。また、子供、高校、大学のコーナーの設置を検討してほしい。
- ③ 参加者が楽しい雰囲気でごせる会にしてほしい。
- ④ ビデオ参加の検討してほしい。

- ⑤ 全員参加型でない方が良い。
- ⑥ 抽選会を含め参加して楽しめるようにしてほしい。
- ⑦ 会員に還元できるものを考えてほしい。
- ⑧ 一般参加席を設ける、家族や友人を連れて来る。
- ⑨ 遠方の方の参加方法を工夫してほしい。

2. 構成・企画について

- ① 伊豆丸先生を含めて、関西吟詩創設当時に関わった先生方の話を聞く機会を設けてほしい。
- ② 構成吟の前に、伊豆丸先生のトークショー的な企画を考えたらどうか。
- ③ 遠方の方のために、3時ぐらいまでに大きなイベントは、完了するようにしてほしい。
- ④ 魅力ある企画でないと人が集まらない。
- ⑤ 構成吟は、ナレや詩舞が目立ちすぎ、吟者が目立つようにしてほしい。
- ⑥ 遠方の方に、頑張ってもらえるようにしてほしい。
- ⑦ 前回50周年大会の、プラスαでよいのでは。
- ⑧ 55周年のあゆみ、映画、テープ、スライド等歴史を感じられるものをしてほしい。
- ⑨ アーカイブス（記録・情報）、リバイバル編を会員に聞く。また、ブロックのリバイバルも同じにする。
- ⑩ 会場全員で出来る、一体化となるゲーム遊びをする。
- ⑪ 他文化交流や友情出演して下さる方を優先する。
- ⑫ 構成吟は1時間以内で、出演者は白鷺の優秀吟者をお願いする。
- ⑬ 構成吟の出演者は地方から選ぶ、固定メンバーでは参加者が少なくなる。
- ⑭ 「鞠挟み」とは別に、会員吟詠を構成吟にしてほしい。
- ⑮ 俳句、和歌も入れてほしい。
- ⑯ 他流派の、優秀吟者を出演してほしい。
- ⑰ 金額的にも問題があり、あまり複雑なものはないほうが良い。
- ⑱ 構成吟は会員重点で、あまり舞台に出ない人も選ぶべきです。
- ⑲ 歌謡吟等も入れたら良いと思う。
- ⑳ 流石、白さぎといわれるような企画をしてほしい。
- ㉑ 来賓は合吟でよいのか、会長・副会長は独吟にしてほしい。
- ㉒ 各ブロックの合吟や舞台のグランプリを決め表彰する。

3. 会員高齢化、減少について

- ① 高齢者が多いので、若い人の入会勧誘が大切、会員の減少をくい止める。
- ② 漢詩、詩吟教育普及のため学校や自治体をお願いする。
- ③ 入会者への会費負担・軽減を検討する。
- ④ 若い会員がいると若い人が入会しやすい。

4. 予算・経費について

- ① 負担金、協力金は会単位でお願いする。
- ② 総予算の見込み作成し参加者の参加費の決定、必要であれば各会に寄付をお願いする。
- ③ 参加者の個人負担が難しい所もあり、参加費を会で負担しているところもあるが小さい会は苦しい。
- ④ 会費を上げると退会者が出る。

5. 団体名について

- ① 「しらさぎ」「白鷺」「白さぎ」55周年大会どれを使うのか。
- ② 白鷺連合会を一般会員に衆知する。
- ③ 白鷺を理解していない人もあり、組織の説明が必要。

6. 記念品・記念誌について

- ① 手ぬぐいやボールペンでなく、会員の為になる記念品を考えてほしい。
- ② 記念誌はいらないのでは、プログラムにお金をかけない。

7. その他

- ① 「白さぎの歴史」を小冊子にし、全会員に配布する。
- ② 鷺伸吟詠会は一人も実行委員がいない、浜松や岡山各会はどうか。
- ③ 記念大会は、なにのためにやるのか。

交流会ディスカッションでの貴重な意見・提言を、参考にしていただき白鷺55周年大会への企画・構成等を実行して頂きたいと思います。

15:30植村鷺登顧問の声高らかな乾杯の発声が行われ、各テーブルごとに、ささやかな懇親会がスタートしました。それぞれのテーブルごとに交流の和が始まりました。交流の和が尽きませんでした。あつという間に時間が過ぎ川畑璋副会長の万歳三唱、吉田鷺航相談役の閉会の辞により、来年また会うことを約束して散会いたしました。

広報部 岳野 恍輔（記）

鷺恵会創立五十周年記念祝賀会開催



と き：平成28年 8月27日（土）
午前11時
ところ：ホテルグランヴィア大阪

鷺恵会選りすぐりの美女から花束の贈呈。最後に会長の謝辞にて式典終了。

続いて会員吟詠『あゆみ』、「淀川は今日も流れる 幾世紀の歴史を秘

平成28年 8月27日（土）午前11時、ホテルグランヴィア大阪に於いて、午前11時「公益社団法人 関西吟詩文化協会 公認鷺恵会の創立50周年記念祝賀会を開催いたします」と開会宣言、記念大会が始まりました。

大会次第に沿って、開会の辞、物故者に対し黙祷、国歌斉唱、巻頭言唱和、関西吟詩文化協会会歌、鷺恵会会歌合吟と進み記念式典へ。ご来賓の祝辞では、山岡哲山先生は鷺恵先生と吟士権を競った時のエピソードを、山口華雋先生は佳恵会長の本部での活躍を語って下さいました。舞台にご登壇頂きましたご来賓の先生方に、

め 或は澱み或は流れ 時として激しく折として緩く 生い繁れる葦のかい間をぬい流れる流れる」（高見鷺播作折ふしのうたより）を朗読。冒頭のアナウンス「淀川の流は、浪速の地にいたり大海にそそぐ、その河口近く海老江の地にわが鷺恵会は呱呱と流れる淀の流れのように、先哲の詩を愛し、師の「和」の心を以って共に相期し、共に励まし合って、ここに半世紀を歩み続けてまいりました」。昭和39年に鷺恵門下を結成、41年に第1回競吟大会を開催してから、まさに鷺恵先生、佳恵先生のもとみんなで紡いできた50年をうたい上げたものでした。





懇親会は、日本当道会大師範菊弘千潤先生、菊隅千椰先生による箏曲演奏で幕を開け、鏡開き。ご来賓の先生に祝吟、祝舞を頂き、会員による花笠音頭が会場を華やかに彩りました。花笠音頭は会員が一丸となって取り組んだイベントでした。何回も何回も練習を重ね、やっとお披露目することができたのです。あっという間に時間が過ぎて午後3時閉会。

関西吟詩文化協会の先生方、白鷺連合会の先生方の多数のご出席を頂き、「盛会だったねえ」、「やっぱり鷺恵会はいい会やわ」等々のお言葉に、会員一同感謝！感謝！。暑い夏の日、改めて50年ってすごいと感じた1日でした。鷺恵会 万歳！

鷺恵会 福永洋恵（記）



講師・支部長奮闘記

『楽しく吟詠を続けるために』

鷺恵会・泉州支部
支部長兼講師 柴谷 鷺恵



平成28年8月27日鷺恵会創立50周年記念祝賀会を開催、関吟総本部と白鷺連合会から多くのご来賓の先生方にご臨席賜わりお陰をもちまして、会員の『輪』の心と一致協力で明るく楽し

い記念の祝賀会となりました。

世界の大国アメリカの新大統領トランプ氏も70歳、今や吟界も70歳代が主役で運営、活動されているのでは・・・！

という私も70歳代後半です。シルバーが輝き、吟の仲間と共に(月・4回×3箇所)の教室で吟詠の向上に会員との対話を大切に

◎『3つの喜び』

- 1 学ぶ(みんなと一緒に学べる)喜び
- 2 目標達成(吟詠が上達する)の喜び
- 3 教える(指導することの出来る)喜び

をモットーに！誰よりも強い熱意を心に秘めて、飴と鞭を使いながら吟詠の基本である詩文の読みは良いアクセント(イントネーション)と発声はメリハリのある響きを活かして、聴覚を主に、時には視覚を取り入れて、レッスンはマンネリ化しない様心がけています。吟詠活動では、地域(地元)の文化活動で(新年のつどい、文化祭・吟詠発表大会)等に書道・華道吟・祝舞吟・合吟で多くの会員(他流派)と共に毎年参加しています。又、鷺恵会は勿論、関西吟詩総本部・白鷺連合会・吟剣詩舞道他の競吟大会にも参加(上位入賞)しています。

毎年、年末になれば次年度の目標(昇格・

昇段・競吟・歌謡吟など)に向けて、会員各位の希望を聞きながら、次年度の目標を年間予定に組み入れています。この当たり前のことを続けることが、大切なのだと思いつつ頑張っています。

高齢化の進む時だから、これからも楽しい吟詠を継続することを願いつつ・・・

つれづれ

春鷺声栄会 上 中 鵬 春



私が講師を始めて約10年になります。教えることより自分の為に声を出す場所を求めたのが発端です。いざ教えてみて音階、譜名、いかに曖昧に適当に声を出していたか、この状態で教えてもいいのか、その迷いが自分の吟にも表れ、より不安定な吟になりました。1～2年試行錯誤をしている内に、生徒達もお腹より声が出てきたり、入会者もぼつぼつ増え、競吟に入賞したり今年は初級の部で優勝者がでました。私も嬉しく頑張ってきてよかったと思っています。ただ競吟に出て、落ちた時の落胆が大きく、出吟しない方が本人も私もおかしくて気楽でいいと思うのですが、入賞できた時の喜びはお金では買えない何物にも代え難く、言葉ではいい表せないものがあります。競吟の結果はどうであれ、ただ出吟することにより本人は勿論、教える側の熱の入れ方が全然違ってきます。私自身は勿論、生徒達にも出吟してもらう様お願いしてきました。

詩吟って本当に難しい、何回指摘しても直らない、出来た!と思っても、又元に戻る。

毎回、同じことの繰り返し、根気比べかなあ

と思えばさっと光がさし込んで、今までいくらやっても出来なかったパズルが解ける時があります。その時の満足、喜びは格別です。

それは私も生徒も一緒だと思います。しかし1回言えば、すぐマスター出来る人もいます。驚きです。本当に十人十色です。逆に生徒から教わることもあり、いい勉強をさせてもらっていると感謝しています。今は親講師を始め、いろんな先生方に教えを仰ぎ、自分を向上させ、生徒達には教室に行くのが待ち遠しい、その日お稽古して、新しい発見を1つ見つけてほしい。私は気長に楽しみながら、これからも講師を勤めさせていただく所存です。

ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願ひ致します。

闘病魔も友として

広島鷺巖会 会長 新林 忠 巖



当鷺巖会は、高齢者が大半を占め、少人数ながら、皆さん元気に活躍しています。然し、昨年に続き本年も諸行事が多く、多忙な1年でした。

小生、今年は入院生活が永きに亘り、8月に「傘寿を迎え」一段と洛魄の身となり、会の皆さんに支えられ、何とか活動はしておりますが、会員増強は出来ませんでした。

本部よりの、再入会促進キャンペーン用のチラシを活用させて頂き、退会者の掘り起しに力を入れて行きたいと思ひます。

ここで、「闘病記」を端折って、しるします。小生、「28・4」事故で頭部を強打して、「慢性硬膜下血腫」を発症。右半身が麻痺に陥り、「穿頭血液吸引術」を受けました。術後のケアを歩行・言語・記憶識字と3名の先生方に受けました。突然、言語担当の先生が新林さんは詩吟の先生だそうですが、一度聞かせて下さいと、促され、吟じたところ、弱弱しい声ながら一応詩

吟になりました。先生は、「関吟を検索」され、師範代の吟詠をお聞きに成っており、新林さんの発声は腹式呼吸なので、リハビリには大変良いですよと、お褒めの言葉を頂き、病気をして詩吟の効用を実感したところです。

2週間余りで、リハビリ専門病院に転院。手の震えは残りましたが、3カ月で退院。退院直後で歩行も危ないなか「11・3」「広島県吟詠剣詩舞連盟・創立60周年記念大会」に参加する事が出来ました。

又、教場使用でお世話に成っております、北広島町千代田中央公民館祭「11・17」に出演させて頂き、教室全員で「母」を連吟しました。その際、詩吟の宣伝勧誘も行いました。

今後、詩吟の効用を実感いたしました経験を踏まえ、会員増強に尽力致す所存でございます。ご指導ご鞭撻の程、願ひ申し上げます。



シリーズ 教室探訪コーナー

新教場 志舟会東粉浜支部

今回より、新指導者の先生が開設された、新教場所にお伺いして元気な声を皆様にお届け致します。第1回目は11月25日志舟会の尾上紅篁先生の東粉浜教室へ広報部、佐川駿声と福永洋恵、天田澄慈が取材に参りました。

教場所は南海本線、粉浜駅より徒歩2分の所に在る「ふれあいセンター」内です。

広報部の取材があるので会長、徳稲穂晃先生がお見え下さり恐縮いたしました。

生徒さんが新人の方々なので、尾上先生は競吟大会等の説明や連絡事項の報告を丁寧にお伝えされている姿がとても印象的でした。



お稽古が始まる前に、平田さんと言う男性の方が新入会されました。羨ましい～なあ

さあ、お稽古が始まりました。まず、準備体操、手を伸ばしてグッパー、手のひらを裏向けて、外側向けて肩甲骨をグリグリと、身体をリラックスする為の運動が終わりました。

次に発声の練習を坂本さんが、ア～イ～を三～七、三～水へ、ン～は鼻に通してと。



本日の吟講習は「江南春望・杜牧」です。素読して、読み下し分でアクセントについての説明をされ、詩の意味、鑑賞、語句の意味を全員で読まれました。途中で94歳の梅村さんが車いすで入場です。ここで全員の集合写真を

撮らせて頂きました。



尾上先生が、千里～鶯啼いて～二句、二句三句と詠われ結句の煙雨の中へ。転句の「上引き上げ揺り引き」等について説明をされ、さあ、最初から最後までいきましょうと。なんと全員一度の声出して詠えるではありませんか。驚きですね!!

次は3人ずつに分かれ6本と3本で詠われました。5番の吟法は3半3、3半3と止めて下さいと細やかな指導が行われています。

続いて「舟中聞子規・城野静軒」を同じように講習されました。

ここからは民謡のお稽古ですと、ええ～～尾上先生が「本調子・お江戸日本橋」「秋田土搗唄」「山形音戸」に岩手の民謡「どどさい節」「九州炭坑節」そして私達も一緒に、「河内音頭」唄いました。こんなに楽しい探訪は広報部初めてです。



高齢者の方には詩吟だけでなく、演歌や、民謡、端唄に都々逸など楽しめることが一番なんだなあと感じました。ここに会員増強のヒントを頂いたようで嬉しく会場を後に致しました。東粉浜教室の皆さん有難うございました。

記・佐川駿声

広報部員：佐川駿声 福永洋恵 天田澄慈

天理吟詠会森ノ宮分会

平成28年11月17日(木)の晩、私は職場がある高槻市から電車を乗り継いで、地下鉄谷町線の「四天王寺前夕陽丘」駅で下車、歩いてすぐ目の前にある「天王寺区民センター」というところに辿り着きました。午後7時15分前でした。今晚、こちらの会議室で詩吟のお稽古をされている「天理吟詠会森ノ宮分会」にお邪魔しました。講師は増田鷺笛先生、会員は現在10名とのこと。

待ち合わせしていた広報部の岳野部員とともに、簡単な取材打合せの後、聞こえてくる吟声を頼りに部屋のドアをノックしました。

午後6時から8時までの二時間のお稽古です。

私たち取材班が訪れた頃には、既に皆さんのお稽古も佳境に入っているところだったようです。

今回は、先日の白さぎ岡山吟行会で訪れた良寛修行の寺として有名な円通寺に因んで、良寛作「余生」が最初の題目であったようです。

私たちが訪れたときには、「チャレンジ吟」というのをされていました。



天理吟詠会の錬成会が行われるようですが、その際にご自分の課題とする吟題を決めてチャレンジしてみましようというものです。

それが一通り終わると、今度は和歌の朗詠です。今回は「幾山河」です。

増田先生の美声のお手本朗詠を聴いた後、お一人ずつ、パソコンにつないだスピーカーから流れる伴奏曲に合わせて朗詠される皆さん。

出だしの音がコンダクタでいうところの最下音「水」から入るので、これがなかなか上手くない。これが上手く出ると、後はすんなりと詠じられるのだが・・・と、皆さん苦笑される。

皆さんは、大阪府下をはじめ京都府、奈良県から集まってこられていました。教場は、第1と第4木曜日が東成区森ノ宮にある「ガス燈」、

第2と第3木曜が「天王寺区民センター」とに分かれているとのこと。どちらも皆さんが集まるのに真ん中の位置にあるようです。

もともと、大阪環状線「森ノ宮」駅前にあったNTTドコモの社員仲間の皆さんでした。会社の会議室で始めた詩吟教室でした。分会の名前由来は、ここから来ているとのこと。退職後もしばらく続けていましたが、新しい教場を探さねばならなくなって、現在のような形になったようです。

会員の平均年齢は74歳とのことですが、皆さん元気はつらつとして、詩吟を楽しんでおられました。

増田先生は、森ノ宮分会のほか、地元奈良の結崎分会でも9名の会員さんを指導されておられます。

今回の稽古場訪問の最後は、ご要請もあり、いきなりでしたが広報部取材班を代表して、私が一吟させていただきました。先般の白さぎ吟行会で訪れた岡山後楽園の能舞台、そこで吟じたことが幸いしたのか、元気な声が出せて胸を撫で下ろしました。



最後に、集合写真を撮らせていただきました。皆さん、ご協力どうもありがとうございました。これからも楽しく詩吟のお稽古を続けてください。

記・塩路澄誠

広報部員：塩路澄誠 岳野悦輔

白さぎ地方の話題コーナー

浜松鷺長会からの話題

2017年のNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」放送決定！

井伊直虎ゆかりの地・・・それが浜松です。「浜松市が発行したガイドブックにこの話題が掲載されていますよ。」と、浜松鷺長会の飯田報信会長から広報部へお便りをいただきました。

いただいた浜松市ガイドブック「井伊直虎～井伊家ゆかりの地」には、



- ①井伊家のなりたち
- ②女城主・井伊直虎
- ③浜松ゆかりの地MAPとお城ガイド
- ④浜松観光、グルメ案内 などなど

挟んであったチラシには、浜松市みをつくし文化センターホールに開設された、『おんな城主直虎 大河ドラマ館』の案内が☆いろんな展示物を見学できるよう。期間は、平成29年1月15日～平成30年1月14日の間。

また、チラシの裏には、戦国の女城主・井伊直虎（次郎法師）とは！の解説と、浜松市までのアクセスが説明されていました。

平成29年度は、皆さんもこの話題一色の浜松へ足を運んでみませんか？

楽しい話題をありがとうございました。

塩路澄誠

ライブ雑感

広島鷺夕会事務局長 石橋 夕藻

平成28年8月28日、第11回広島鷺夕会ライブを開催しました。

毎夏、この時期に広島駅の地下イベント広場で行います。

朝8時30分から会員総出で会場作りから始まります。普段、何もないマルチビジョンの下には、あれよあれよという間にステージが立ち上がります。椅子もパーティションものぼり旗も着々とセットされていきます。音響はプロの方をお願いして、10時にはすべて準備が整い、11時の開演までリハーサル。

いよいよ開演です。第一部は、俳句と合吟を主にして春夏秋冬を吟じました。

リハーサルでは心配だった独吟俳句も本番は大成功！

第二部では、賛助出演をお願いしている剣詩舞の剣友会青年部の4人が、若々しく軽やかに、凛々しく舞って会場を沸かしてくれました。

第三部は、曾根会長の詩吟教室。会場の観客と一緒に「白帝城」の吟詠と「たわむれに」の短歌朗詠の体験教室です。

いよいよ第四部は、構成吟「戦国時代を駆け抜けた武将達」。中本優姫さんと向井康昭さんの名ナレータによる戦国絵巻の展開です。

オープンステージなので、マイクの出し入れ、吟者、舞方の舞台袖でのスタンバイも全て客席から丸見えです。緊張も最大級になっています。

照明もなく、素顔をさらけ出す一瞬です。ただ、後ろのマルチビジョンに映し出される絵や漢詩が助けとなって、会場に華やかさを添えてくれます。

舞の先生方も、最高の床状態でないにもかかわらず、見事に戦国武将を舞っていただきました。

女性合吟、男性合吟を含みながら、主に連吟を中心に吟じていきます。特に、火曜吟詠「花の元就」の舞と吟には、大きな拍手をいただきました。

伴奏の音が消え、曾根会長の琵琶が会場に響き始めると、今までの空気とは違う静寂の世界が広がり、琵琶語りの詩が心の奥底に染みてきます。

ラストは、若手ホープ2人で「荒城の月」を吟じ終えて、会場は大拍手のうちに幕を下ろしました。

さあ、会場の後片付けです。総出で会場を元通りにして、汗だくのうちに満足感を味わいつつ、みんな帰路につきました。

平成29年11月、この地下広場で鷺夕会45周年大会を開催しようと、意気を盛り上げています。その際は、是非、観に来てください。



機関紙のコーナー（ご紹介）

会報「そうせん」支部報

双仟吟詠会

会主 村田 訓 洲

双仟吟詠会は西暦二千年「双仟＝二千を表現」、現やまと吟詩会から分離独立、当初は講師中野鷲訓先生のお名前を借りて中野グループとして発足しました。

平成14年春、関西吟詩文化協会総本部から双仟支部と承認され、順次白鷺連合会、奈良県連合会、天理連合会、奈良県総連合会へ加入し現在に至っています。

初代講師の中野鷲訓先生は発足に当たり、先ず、会則の制定と会の基本理念・努力目標を設定し、更に会報を制作して欲しいと願望されました。

先生は「そうせん」の創刊号で次の様に述べられています。[お互いの新聞として必ずお読みください。皆様の投稿を待っています。難しいことを書く必要はありません。平素友達と話し合う内容、或いは自分の思いを平易な言葉で筆にして頂いたらよろしい]と第2号から基本理念と努力目標を表記することにしました。

中野鷲訓先生のお言葉を基本に継続して、今春第35号に到りました。創刊号より会報作りに関わった私は、中野先生が言って居られる通り

表紙絵は新聞方式を真似ています。今日まで新聞方式であったのは私がパソコンのソフト太郎を使い表紙絵も創作、編集から製本まで総て当吟詠会の手作りとしてきました。費用は紙代とインク代だけです。ワードでの変換が難しいのでズルズル今日まで継続してしまいました。

次の36号から会報らしい表紙絵とソフトはワードに変更します。

この会報「そうせん」支部報の基本理念は一、「そうせん」は双仟吟詠会会員の会報で詩吟の会報ではありません。二、決して詩吟に拘ること無く普段自分の思い、考えをストレートに書いて欲しい。三、作文の上手下手は関係なく思うままに書いてください。四、ページ数はどれだけであってもかまわない。五、誰も批評はしませんが批評を恐れなくてください。六、自分で創作した写真、絵、イラストであっててもかまいません、としております。

継続は力なり、筆書きソロバンは勉強の始めをモットーに続けたいと願っています。



史跡探訪の旅

宮崎東明先生の故郷を訪ねて・・・

大阪環状線京橋駅でJR東西線に乗り換えて、野崎駅に降りました。

駅前の朱塗りの橋を渡ると、「野崎小唄」でお馴染みの屋形船の案内図が迎えてくれました。その横に野崎参道と書かれた商店街を通り抜けると「野崎観音慈眼禅寺」・「観世音菩薩」の大きな二つの石表札、この辺りが東明先生の故郷のようです。

昔、この地に3件の大地主があり、その一軒が東明先生のご実家。

私は東明先生の歌碑がどうして野崎観音内に建立されているのかしら？と、思いながら、参道をまっすぐ、ゆっくりと歩いていくと、南條神社と隣接する慈眼寺「通称・野崎観音」が迎えてくれました。寺門をくぐると、東明先生の歌碑が本堂と向かい合って建立されていました。



毎年9月が東明先生の命日で本部主催の東明祭はこの地で催されていると、現住職の奥様(田村まさ子様)に説明いただきました。前住職・尾瀧一峰僧正様の娘様に当たる奥様から色々当時の話を聞かせていただくと、「以前はこの境内にパイプ椅子を並べ、会員の昇格・表彰なども行われ、大勢の方の参列でした。しかし寺の行事と重なること多くなり、現在は幹部先生のための法要にしてもらっています」・・・との

説明に納得しました。

また、祖父様が当時漢詩を人々に教えて、その中のおひとりに東明先生がいらして、漢詩の「韻」を踏むことを特に説かれたとのこと。お父上・尾瀧一峰僧正様も同じく学ばれ、東明先生が医師となられて、玉川町(大阪市福島区)に移られてからも永きに亘り交流が続いていたと懐かしく思い出しながらお話しくださいました。



毎年5月1日から8日は野崎参りのお祭りで縁日が並び、大勢の人でにぎわうそうです。

また本堂で楽器演奏などのコンサートなどが日々催され、いつも人集うお寺で東明先生も微笑んでおられることでしょう。

境内から左手あたりが東明先生のご生誕地と聞き、今はもうたくさんの家が立ち並び面影はありませんでしたが、木々に囲まれた静かな高台で、昔はこの地から大阪城や淀川が一望できたことでしょう。緩やかな道を下り、とても心安らいた野崎の街を後にしました。

関西吟詩の礎を築いてくださった宮崎東明先生のご生誕の地を自分の足で訪ねることができ思い出深い一日になりました。津曲部員とのんびり二人旅 楽しかったです。

2016・10・20 訪 天田 澄慈 (記)

青葉の笛にみせられて・・・

関西吟詩の新譜として紹介されてから益々気になり、「青葉の笛」が飾られているという須磨寺(正式名・上野山福祥寺)を訪ねてきました。

JR 須磨駅でホームに降りると、瀬戸内の雄大な水面がキラキラと迎えてくれました。

山手に歩いていくと山陽電鉄の須磨駅があり、それより徒歩5分。

仁王門をくぐると色づき始めた桜並木、過ぎると左手に平敦盛と熊谷真実の一騎打ちの像が実物大で再現され、蕪村の句が添えられています。その奥の宝物館では源平ゆかりの遺物の数々の展示、その中央に「青葉の笛」が鎮座され800年も昔の笛とは思いませんでした。

この笛の音が戦の朝に敵方にまで響き渡った敦盛の笛で、心優しい17歳の魂のようにみえました。その隣の部屋では合戦の「一の谷の逆落とし」や平家物語の場面などが石人形で動きも交えて説明されて、ひと時見入ってしまいました。



また豊臣秀頼が再建したとされている本堂にはエレベーターも備えられ足元に優しい心遣いがあちこち感じられました。左に行くと敦盛の首塚があり、手前には義経が首実検をするのに腰かけたとされる松の古木が大切に置かれ、その前の池が「敦盛首洗池」。胴塚は一の谷町(須磨浦公園駅付近)の山手辺りにあるとの説明でした。

その他に四国八十八所お砂踏霊場や五猿・出世稲荷・シベリア慰霊碑などたくさんの碑があり擦ると動いたり、曲が流れたり、あちこちに

趣向がこらされ楽しくお参りできました。



本堂は豊臣秀頼に再建されたご本尊は聖観世音菩薩 その左手に弁慶の釣鐘 その奥からが奥の院への道、弘法大師・空海が祀られています。その道すがら奥の院めぐり(ちょっと山道)十三佛・七福神めぐりで奥の院に到着するとうっすら汗をかきました。



毎週日曜日と20日・21日弘法さんの日には縁日が立ち大勢の参拝者でにぎわうそうです。

他にも境内には松尾芭蕉・正岡子規・与謝蕪村など20数か所の句碑・歌碑あり、今でも愛されている須磨寺。

敦盛の菩提寺として広く知られている須磨寺は平家物語の寺として親しまれ、魅力いっぱいのお寺で、春は桜 秋は紅葉と四季折々楽しむお寺です。

帰り路の商店街では昭和から営まれていると言われた味わい深い食堂で懐かしい味に出会い心もお腹もいっぱいになりました。

青葉の笛の神髄がなお一層味わい深く感じられた福永部員との二人感動旅でした。

2016・10・29 訪 天田 澄慈(記)

神戸フルーツフラワーパークと三田栗拾い日帰りの旅

女性部長 東 本 秋 愛

昨日までの晴天が嘘の様な9月13日(火)今にも雨が降りそうなどんよりと曇った空を恨めしく感じる朝でした。私達女性部は総数103名、2台のバスにてキリンビール工場見学～明太子工場見学～フルーツフラワーパーク～栗拾い～パスカルさんだの5か所を巡る欲張りな旅です。

8時30分新大阪駅より中国道を経て、一路キリンビール工場見学へと向かいました。バスの中では久しぶりの集いに、皆様方はいきいきと輝きパワーにあふれていました。10時10分ビアパークに到着、先ずはビール樽の前で記念撮影を終え工場内へ、良い水と麦芽、ホップ、発酵で作られる美味しいビールの製造過程を見学しました。最後にお楽しみのビールの試飲。3種類の出来立てのビール3杯迄無料ですが、3杯飲めた方は少なかった様です。皆さん上機嫌でバスの中は一段とにぎやかになりました。やがて明太パーク工場へ。製造過程の説明を受け、工場内へ。こちらでも明太子の試食「ここでビールが欲しいわ」の音が…。皆大笑い！お土産を物色し次の行程へ。お待ちかねのフルーツフラワーパークへ到着しました。ここフルーツ

フラワーパークは、北神戸の広大な山手に広がる美しい建物や庭園を中心に数々の施設、遊園地、温泉が点在するホテルです。ここで待望の昼食となりました。松尾佳恵会長のご挨拶を頂き、高田朱粋先生の乾杯で和やかな昼食になりました。一時間半ほど休憩の間、庭園で散策を楽しむ人、買物をする人、思い思いに自然を楽しみ次の栗農園へ。バスはどんどん山手に向かい、田んぼに囲まれた駐車場で下車、野道を歩く事15分、私のグループの栗拾いは山の上のほうなので、日頃の足腰の痛みも忘れ夢中で登り栗を拾いました。栗のお土産を頂き、最後に立ち寄ったのは、今夜のメニューにと三田の農産物店「パスカルさんだ」にて地元産の旬の野菜をゲット、皆様の荷物はどんどん大きくなっていきます。帰りのバスでは恒例の空くじなしのビンゴゲームを楽しみながら、新大阪に帰ってまいりました。雨に会う事無く自然を楽しみ、充実の一日を元気で無事に終える事が出来ました。平成29年11月23日女性部20周年大会に向け皆様と頑張っ参ります。今後共、ご支援ご協力賜ります様宜しくお願い申し上げます。



第49回白鷺連合会青年部吟詠大会を終えて

青年部部长 池田 恍 聖

白鷺連合会会員の皆様こんにちは! 日頃は、青年部の活動にご理解をいただき誠にありがとうございます。また、青年部に対して叱咤激励いただきましてありがとうございます。

今年度は、平成28年10月30日(日)に西淀川区民ホールにて第49回白鷺連合会青年部吟詠大会を開催し、大変盛會に無事終わることが出来ました。大会には、白鷺連合会の皆様や青年部OBの先生方、会員各位をはじめ、総本部の来賓の諸先生・白鷺連合会の役員の方の諸先生・友好青年部の諸先生他約181名の参加で大盛況に開催できました。これも皆様方の多大なるご協力、ご支援のお陰と感謝しております。また、松尾鷺恵先生・伊東鷺伸先生・松野春秀先生のご出席も賜り大変恐縮しております。更にサプライズで愛国詩吟総連盟二部吟士権者の南方快聖先生の御範吟も賜りました。

大会は、テーマを「奏 かなで」と設定し、「つながり」と称して構成吟で「LOVE SONG 百人恋唄」をし、百人一首の中から恋の歌を男女で朗詠いたしました。

この大会は、いつもの吟詠中心の大会でなく、和歌・俳句・新体詩中心の大会にいたしました。

青年部大会名物の「飛び入り吟詠のコーナー」も熱のこもった批評で大変盛り上がりました。また、「ご来賓の先生と連吟コーナー」も今回は、川村朋映先生と河野櫻煌部員が連吟をさせていただきました。

大会は、いろいろ反省すべき点がありましたが、それを次回に生かして今後進めていきたいと思えます。また、部員の吟力もより一層の向上を図っていきます。

地方の青年部と交流しようという事で各地の訪問を実施していますが、今回は、白さぎ吟行会が岡山であることから、岡山大学吟詩部を訪問しました。

平成29年度で白鷺青年部は、第50回の大会を迎えます。50年の長きにわたり青年部の諸先輩の作り上げてきた伝統を守りつつ、新しいことに挑戦していきたいと思えます。さらに第50回記念大会を平成30年2月18日に盛大に開催したいと考えております。大会テーマは「半世紀」～ここから～です。

たくさんの皆様の御参加をお待ちしております。

今後も青年部の活動に更なる叱咤激励をいただき、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。



みんなで成功させましょう♪

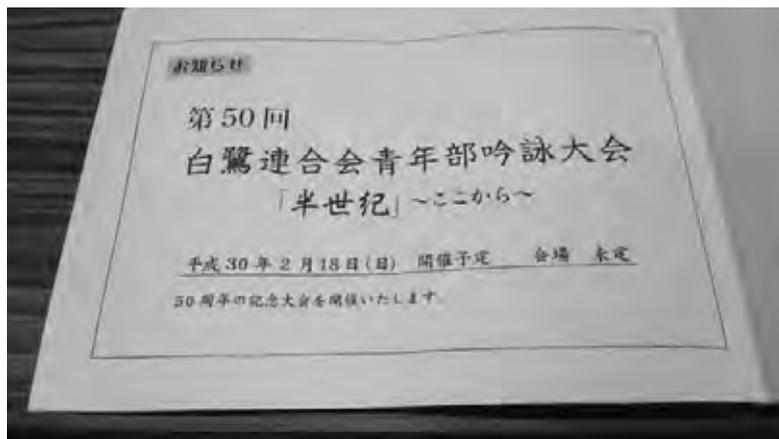
**白鷺連合会創立55周年記念大会
及び
伊豆丸鷺洲先生
生誕130周年記念祝賀会**

日 時：平成29年10月29日（日）

場 所：高槻現代劇場

.....

若さぎも50周年を迎えます☆



日 時：平成30年2月18日（日）

場 所：会場は未定

楽しく・和やかに・一心向上

本年もよろしくお願ひします。

平成29年 元旦

<p>公認 鷺 迪 吟 詠 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>	<p>春 鷺 声 栄 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>	<p>公認 攝 友 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>
<p>茨 木 清 流 会</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>成 秋 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>	<p>公認 攝 友 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>
<p>鷺 粹 吟 詠 会</p> <p>会 主 難 波 恭 粹 副 会 長 山 本 誠 山 粹 理 事 長 高 田 朱 山 粹 副 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>船 場 吟 詠 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>	<p>公認 岳 豊 会</p> <p>会 主 松 尾 岳 豊 相 談 役 森 田 鷺 豊 副 会 長 宇 都 宮 蘇 豊 理 事 長 原 田 岳 蓉 副 理 事 長 岡 田 岳 遙 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>
<p>公認 岳 豊 会</p> <p>会 主 松 尾 岳 豊 相 談 役 森 田 鷺 豊 副 会 長 宇 都 宮 蘇 豊 理 事 長 原 田 岳 蓉 副 理 事 長 岡 田 岳 遙 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>船 場 吟 詠 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>	<p>公認 岳 豊 会</p> <p>会 主 松 尾 岳 豊 相 談 役 森 田 鷺 豊 副 会 長 宇 都 宮 蘇 豊 理 事 長 原 田 岳 蓉 副 理 事 長 岡 田 岳 遙 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>
<p>公認 岳 豊 会</p> <p>会 主 松 尾 岳 豊 相 談 役 森 田 鷺 豊 副 会 長 宇 都 宮 蘇 豊 理 事 長 原 田 岳 蓉 副 理 事 長 岡 田 岳 遙 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>双 仟 吟 詠 会</p> <p>会 主 村 田 訓 洲 副 会 長 宮 崎 訓 胤 理 事 長 竹 谷 訓 鳳 他 役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>公認 岳 豊 会</p> <p>会 主 松 尾 岳 豊 相 談 役 森 田 鷺 豊 副 会 長 宇 都 宮 蘇 豊 理 事 長 原 田 岳 蓉 副 理 事 長 岡 田 岳 遙 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>
<p>吼 月 会</p> <p>会 主 矢 野 陽 副 会 長 森 吉 清 会 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>鳶 声 会</p> <p>会 長 黒 瀬 鳶 副 会 長 鳥 田 眸 鈴 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>公認 攝 友 会</p> <p>会 長 田川下井 他 副 会 長 安俣山竹平 他 理 事 長 田川下井 他</p> <p>鷺 輝 濱 攝 迪 一 会 員 一 同</p>
<p>志 舟 会</p> <p>会 主 村 德 村 赤 玉 佐 他 副 会 長 松 尾 岳 豊 理 事 長 原 田 岳 蓉 副 理 事 長 岡 田 岳 遙 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>澄 声 会</p> <p>会 長 塩 路 澄 誠 副 会 長 北 井 澄 声 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>公認 鷺 照 吟 詠 会</p> <p>会 長 大 坂 内 田 鷺 照 副 会 長 取 本 田 鷺 照 理 事 長 鷺 照 照 照 同</p>
<p>淞 苑 会</p> <p>会 長 中 谷 淞 苑 副 会 長 金 澤 苑 玲 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>澄 峰 会</p> <p>会 長 松 坂 澄 峰 副 会 長 大 江 澄 寶 理 事 長 上 賀 鳳 峰 副 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>	<p>守 目 堂 吟 詠 会</p> <p>会 長 田 中 鷺 華 副 会 長 安 川 淞 嵐 理 事 長 高 田 淞 嵐 副 理 事 長 伊 崎 岳 城 (豊岡支部長) 田 中 岳 涼 (日高支部長) 井 地 岳 暢 (出石但東支部長)</p> <p>役 員 ・ 会 員 一 同</p>

白鷺連合会各部部員紹介コーナー

新体制の各部部員を紹介するコーナーです。

今回は、財務部、総務部、広報部の各部員を写真入りでご紹介します。

<財務部>



児玉登春 部長

小林攝匳 副部長

<総務部>



新武妹孝 井上容声 赤松青篁 加藤扇郊 山本翔伸 辰巳迪輝 森本敬声 副部長
北浦広恵 副部長 高田朱粹 前部長 谷澤暁声 部長

<広報部>



長谷川岩郷
天田澄慈

表西鵬吼

塩路澄誠部長
岳野恍輔

福永洋恵

津曲恍嫺

佐川駿声副部長

編集後記

★平成28年5月に開催された白鷺理事総会の役員改選において、このたび広報部長を拝命いたしました小生ですが、就任の初年度に白鷺機関誌48号が無事に発刊ができましたこと、ひとまず喜びとするところであります。村田前広報部長ほか退任された部員の皆様には、長い間お疲れ様でした。経験豊富な従来からの再任5名と、小生を含む新任3名で構成する計8名の新体制でスタートした広報部です。従来からの白鷺広報部の良き伝統は継承しながらも、新しい感覚・ニーズを取り入れながら、情報発信のアンテナを張り続けて参ります。

★平成29年は、まさしく酉年です。白さが羽ばたく年です。

★平成29年度は、白鷺連合会創立55周年記念の年であり、伊豆丸鷺洲先生の生誕130周年という記念の年でもあります。白鷺青年部創立50周年の年でもあります。

★飛躍し続けるイメージを継続していくため、広報部機関誌の表紙テーマは、「白鷺」の様々な表情、そんなポリシーカラーで、今後も継続的に彩りたいと思います。

★白鷺会員皆様方からの叱咤激励を糧として、中身を充実させるように今後ますます邁進して参る所存ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

広報部長・塩路澄誠

行事予定

(平成29年4月～30年3月)

平成29年4月～12月

月	日	行事予定
4	9	第56回白さぎ吟詠の集い競吟大会(高槻)
5	13	白鷺連合会理事総会
6	3	関吟定時総会
6	11	特別研修会兼推薦師範講習会
6	18	関吟吟詠普及研修会(九州)
6	18	関吟昇格試験(地方)
7	2	関吟昇格試験(師範)
7	16	関吟昇格試験(準師範)
7	23	関吟昇格試験(師範代)
8	20	関吟吟詠普及研修会(岡山)
9	3	関吟本部研修会(師範 課題詩)
9	10	関吟東明碑前祭・本部研修会
10	15	関吟全国吟詠大会(奈良) 幼少年
10	29	白鷺連合会55周年大会(高槻現代劇場)
11	12	関吟全国新人中間層吟詠大会
11	23	白鷺第20回記念女性部大会(太閤園)
11	26	関吟本部研修会(準師範・師範代課題詩)
12	10	関吟全国師範代・準師範・師範吟士権大会

平成30年1月～3月

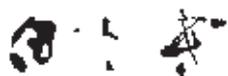
1	6	白鷺連合会新年互礼会
1	7	関吟新春吟詠普及大会(新年互礼会)
1	28	関吟吟詠普及研修会(京滋・福井)
2	3～4	関吟吟道大学講座
2	18	白鷺第50回記念青年部大会(場所未定)
2	18	関吟吟詠普及研修会(愛知・三重)
2	25	関吟吟詠普及研修会(浜松)(四国)
3	18	関吟吟詠普及研修会(西中国)
3	25	関吟青年部大会



目次

白さぎ48号

巻頭言	会長〈松尾佳恵〉	……	2
■平成29年	白鷺新年互礼会	……………	2
■平成28年度	実態調査結果について	……………	3
■関吟総本部	主催全国競吟大会の結果	……………	3
■平成28年度	総会報告	……………	4
■展 望	鷺声吟詠会〈堂本鷺謙〉	……………	5
	岳 豊 会〈岡田岳遙〉	……………	6
■第55回白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告	……………		7
■白さぎ吟行会「岡山大会」開催される	……………		8・9
■第4回白さぎ交流会	……………		10・11
■周年大会	鷺恵会創立50周年記念祝賀会〈福永洋恵〉	……………	12・13
■講師・支部長奮闘記	鷺 恵 会〈柴谷鷺恵〉	……………	14
	春鷺声栄会〈上中鵬春〉	……………	14・15
	広島鷺巖会〈新林忠巖〉	……………	15
■シリーズ	教室探訪コーナー		
	新教場紹介 志舟会 東粉浜支部 広報部〈佐川駿声〉	…	16
	天理吟詠会 森ノ宮分会 広報部〈塩路澄誠〉	……………	17
■白さぎ地方の話題コーナー	浜松鷺長会「おんな城主 直虎」放送決定		
	広報部〈塩路澄誠〉	……………	18
	広島鷺夕会 ライブ雑感〈石橋夕藻〉	……………	18
■機関紙コーナー	双仟吟詠会〈村田訓洲〉	……………	19
■史跡探訪の旅	宮崎東明先生の故郷を訪ねて 広報部〈天田澄慈〉	…	20
	青葉の笛にみせられて 広報部〈天田澄慈〉	……………	21
■女性部だより	女性部長〈東本秋愛〉	……………	22
■青年部だより	青年部長〈池田恍聖〉	……………	23
■お知らせ	白鷺連合会創立55周年記念大会	……………	24
■白鷺連合会組織系統一覧	……………		25
■楽しく・和やかに・一心向上	本年もよろしくお願ひします	……………	26・27
■白鷺連合会各部部員紹介コーナー	財務部 総務部 広報部	……………	28・29
■編集後記	……………		29
■行事予定・目次	……………		30



No.48

発行 2017年2月17日
発行所 公益財団法人関西吟詩文化協会承認白鷺連合会
発行責任者 松尾佳恵
編集責任者 塩路澄誠

題字／西野楊郷